

博士論文

膠原病患者への支援における心理専門家の役割  
——当事者と医師へのインタビュー調査から——

2018年度

大学院心理学研究科臨床心理学専攻

大河内範子

東京成徳大学

## 要約

本論文では膠原病の病気の特徴に応じた心理専門家の役割について検討した。

研究1は全身性エリテマトーデス患者の心理的変容過程を明らかにするため協力者10名を対象にインタビュー研究を行った。その結果、患者が症状や治療だけでなく社会との関わりを通して心理的変容を経験することが明らかとなった。結果から心理教育的支援、多職種チーム支援、患者同士の関わりの促進が心理専門家に求められていると考えられた。

研究2においては膠原病患者を対象としたサポート・グループの有用性と心理専門家の役割を明らかにした。研究2-1では3年間実施したサポート・グループの事例研究を行った。その結果、サポート・グループが膠原病患者の「居場所」として機能すること、「病気の再確認」の場となり「治療への適応」を促進すること、病気を患いながら生きることの積極的な意味を見出す機会となり「人生の再構築」を可能とすることがわかった。また心理専門家には「アセスメント」「テーマの見極め」「対等な場の提供」「情報共有の促進」の役割が求められていることが示された。研究2-2はサポート・グループに1年以上参加したメンバー7名に対するインタビュー研究を実施した。その結果、メンバーが病気による混乱と絶望を経験しており、病気に適応するための工夫を行っていること、理解者を得ることの難しさが心理的葛藤を強めていることが明らかとなった。メンバーはサポート・グループの中でも理解者を得ることの難しさを感じるが、当事者でもある心理専門家を支えに心理的安定に至った。この結果は患者同士の関わりに心理専門家が関与することの意

義を示唆した。

研究3では膠原病患者の治療にあたる医師の言葉から心理専門家の役割を明らかにした。研究3-1では膠原病内科医5名を対象としたインタビュー研究を行った。膠原病内科医は難治性であるがゆえのジレンマによって心理的葛藤を抱くが、他科・多職種の助けを得ることによって患者の気持ちに配慮した治療に至ることが明らかとなった。研究3-2では膠原病内科・皮膚科・精神科・小児科・整形外科の医師を対象として10名にインタビューを実施した。その結果、医師は心理専門家に対して患者に対する心理的支援を求めており、加えて医療者への心理的支援も求めていることが明らかとなった。

総合的考察においては膠原病患者の心理的変容過程を『不可解』『否認』『怒り』『不信』『取引』『抑うつ』『受容』の7つの段階に分けて概観し、各段階において心理専門家に求められる役割を明らかにした。

本研究の課題はインタビュー研究において理論的飽和に至らなかったことである。また、患者家族への心理的支援の検討、トランジションをスムーズに行うための心理的支援の検討も今後の課題であると考えられた。